韓国語学習と韓国に対するイメージ形成の関係
―日本の大学生学習者へのアンケート調査を通して見た現状と変化[1) 2) 3)] ―

生　越　直　樹

はじめに

筆者を含む研究グループは、2003 年から 2004 年にかけて、日本、韓国、台湾において、日本語、韓国語学習と日本（人）、韓国（人）に対するイメージ形成の関係を明らかにするためにアンケート調査を行った。[4)] 筆者は韓国語学習と韓国（人）イメージを担当し、日本と台湾で調査を行った。[5)] 生越（2006）では、日本の大学生を対象に行った韓国・韓国語に関する調査結果と韓国の大学生に行った日本・日本語に関する調査結果を比較しながら、韓国語・日本語学習と韓国・日本のイメージ形成について分析を行っている。分析の結果、日本の韓国語学習経験者と未学習者では、イメージ形成に影響する要因が異なることなど、以下のことを指摘した。

1）全体的な傾向として、調査した学生が抱く韓国イメージは、マスコミの報道、特に政治に関わる報道に大きく影響されており、経済関係による影響は小さい。
2）学習経験者の韓国イメージは、マスコミ報道、韓国に関する人物、大衆文化というさまざまな観点から形成されている。
3）未学習者の韓国イメージは、もっぱらマスコミや書物からの情報によっており、情報が限定的かつ受動的である。

さらに、学習者の学習動機や将来の活用方法などについては、以下のことを指摘した。

1）日本の学生では、韓国（人・文化）と韓国語に対する関心が韓国語学習のもっとも大きな理由になっている。一方、韓国の学生では、日本（人・文化）のほか日本の大衆文化への関心が日本語学習の大きな理由になっている。
2）韓国では、日本の大衆文化がイメージ形成に影響を与えるだけでなく、日本語学習の大きな動機になっているが、日本では、韓国の大衆文化に対する興味は韓国の日本語学習者ほ

1）This work was supported by the Core University Program for Korean Studies through the Ministry of Education of the Republic of Korea and Korean Studies Promotion Service of the Academy of Korean Studies（AKS-2014-OLU-2250002）.
2）本稿は、2019 年 6 月にソウル大学言語教育院韓国語教育センター開院 50 周年国際学術大会で行った研究発表を日本語にするとともに、内容を修正・追加したものである。
3）今回の調査は韓国に対するイメージ形成を調べることを目的としており、調査でも言語名を韓国語とした。本稿でも言語名を韓国語とする。
4）齋藤明美翰林大学教授（当時）を研究代表者とし、分担者として篠原信行台湾大学教授（当時）、任栄哲中央大学教授（当時）、生越、後に齋藤良子氏（東京大学博士課程（当時））が加わった。
5）調査の結果全体は、齋藤編（2012）にまとめられている。

ど高くない。

3）日本の学生は、韓国語の高い能力を持つことが将来役に立つというより、韓国語を知っていること自体が将来役に立つと考えている。一方、韓国の学生たちは、自分たちが高い日本語能力を身につけ、その日本語能力が実用的な面で役立つと考えている。

前回の調査から 10 年以上経過し、日本、韓国、台湾における日本・韓国、日本語・韓国語を巡る状況も変化している。我々のグループは、前回と同じ調査を行うことにより、日本、韓国のイメージおよび日本語学習、韓国語学習の変化を探ることにした。前回と同様、筆者は日本および台湾の韓国語学習に対する調査を担当し、台湾、日本で調査を行った。本稿では、今回日本で行った調査結果から、韓国語学習者が抱く韓国（人）イメージおよびその形成に影響する要因、さらに韓国語学習の動機との関係について、前回の調査とも比較しながら、その現状と変化を明らかにしたい。

1. 調査の概要

今回日本で行った調査は、韓国語学習とイメージ形成の関係を探るために、韓国語をいわゆる第二外国語として学習する大学生（以下、教養学習者と呼ぶ）、専攻として韓国語を学習する大学生（以下、専攻学習者と呼ぶ）を対象として行われた。[6] 調査は 2019 年 10〜12 月に首都圏の大学 12 校と宮崎の大学 2 校、計 14 校において行われ、基本的に授業でアンケート用紙を配布、回収する方法を取った。14 校のうち 2 校では、韓国語関係の学科あるいはコースが設置されており、韓国語を専攻として教えている。調査協力者のうち留学生や大学院生を除外した結果、分析対象の回答者数は、教養学習者が 1036 名（男性 248 名、女性 769 名、性別不明 19 名）、専攻学習者が 132 名（男性 2 名、女性 126 名、性別不明 4 名）、計 1168 名であった。教養学習者では女性が男性の 3 倍、専攻学習者ではほぼ全員が女性であるが、これは調査対象に女子大学が 4 校含まれていることが影響している。ただし、男女共学の大学でもほとんどの大学で、男性より女性の回答者が多かった。[7] 最近、大学で韓国語を学習する学生には女子学生が多いと言われており、今回女性の回答者が多かったのもそういう現状を反映したものと考えられる。

学年は 1 年生が全体の 70.9％、2 年生 15.7％でほとんどが大学 1、2 年生である。また、学習期間が 1 年未満の学生が 8 割程度を占め、今回の調査協力者の多くは初級学習者である。

今回の調査と比較する前回のアンケート調査についても、概要を述べておく。前回の調査は、2003 年 10 月から 11 月にかけて首都圏の大学 7 校で行った。前回は専攻学習者は対象とせず、教養学習者と学習経験のない学生を対象とし、韓国語学習者 211 名、未学習者 147 名、計 358 名のデータを収集した。ただし、学習者の 7 割、未学習者の全員が一つの大学の学生であったた

6）教養学習者は、1 年生の時、1 回 90 分から 105 分程度の授業を週 2 回受講することが多い。2 年生以降は、大学によって、また学生によって受講時間数が異なる。

7）大学別の回答数と性別を示すと、A 校 92 名（男 63, 女 24, 不明 5）、B 校 78（22,54,2）、C 校 46（9,36,1）、D 校 114（76,31,7）、E 校 267（0,267,0）、F 校 88（24,63,1）、G 校 53（13,39,1）、H 校 119（0,119,0）、I 校 90（0,90,0）、J 校 35（19,15,1）、K 校 22（3,19,0）、L 校 7（3,3,1）、M 校 74（18,54,2）、N 校 83（0,81,2）である。B 校、C 校が宮崎、他は首都圏の大学で、M 校、N 校には教養学習者と専攻学習者がおり、他の大学は教養学習者のみである。

め、得られた結果が当時の日本の大学生の一般的な傾向ではなく当該大学の特徴であった可能性がある。その大学は男子学生の比率が高いため、前回の調査協力者の約 6 割は男性であった。今回と前回の結果を見る際には、所属大学の偏り、性別の比率の違いに留意する必要があろう。

本稿では、前回と比較可能な教養学習者を中心に結果を分析し、必要に応じて、専攻学習者にも言及することにする。

2. 韓国に対するイメージ

調査ではまず、韓国に対してどのようなイメージを持っているか、という質問をした（資料の調査票 1.1 参照）。図 1 はその結果で、図では今回と前回の教養学習者の結果を示している。今回の結果を見ると、「特に他の国と変らない」という回答が一番多いが、悪いイメージに比べてよいイメージを持つ学生が多いことがわかる。ただし、前回の調査と比べると、よいイメージを持つ学生の割合が減っている。この背景には、韓国語学習を巡る状況の変化があるのかもしれない。現在は、2003 年当時より多くの大学で韓国語を教えるようになり、学習者数も急増している。それにつれ、それほど韓国・韓国語に関心を持たずに学習している学生も増えているようである。この点については、学習動機の所でもう一度触れる。なお、当然のことながら、専攻学習者は教養学習者よりよいイメージを持つ学生が多かった。

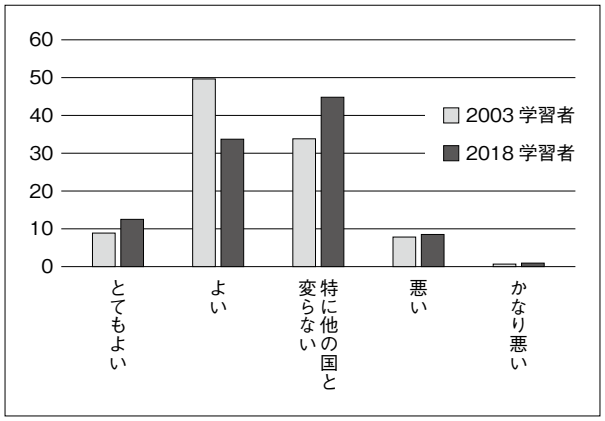


図 1　韓国に対するイメージ（教養学習者　前回 2003 年と今回 2018 年）（数値は％）

次に、学習者たちが韓国に対するイメージを持つ上で、どのような要素がイメージ形成に影響を与えているかを調べてみた。調査方法は、イメージ形成に影響を与えそうな様々な項目を示し、影響を与えている度合いを、大・中・小・無の 4 つから選択させる方法をとった（質問票 1.2 参照）。教養学習者の回答について、回答の大を 3、中を 2、小を 1 と数値化し、項目ごとに平均値を示したのが図 2 である。数値が大きくなるほど、その項目は韓国のイメージ形成において大きな影響を及ぼしていることになり、図 2 では数値が大きい順に項目を並べた。

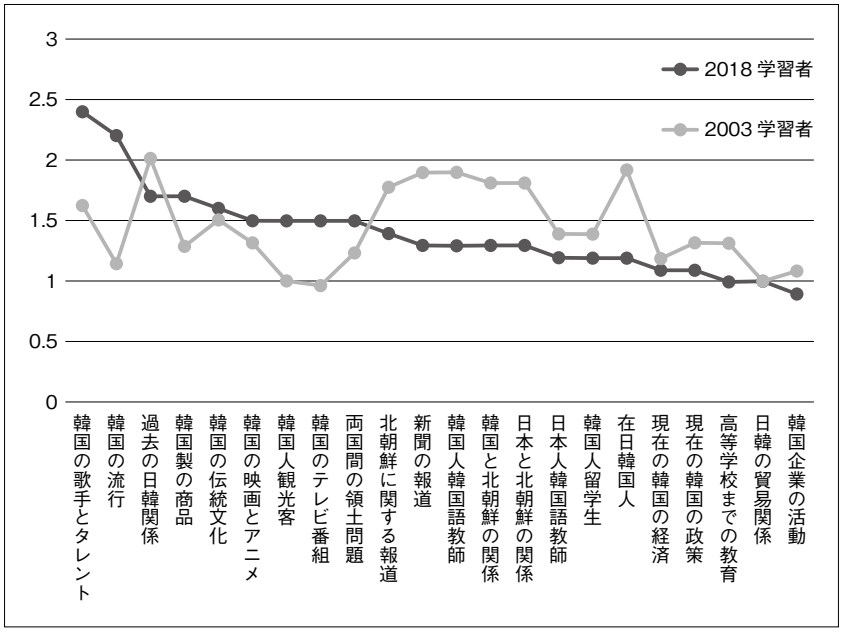


図２　韓国イメージ形成への影響項目（教養学習者　前回と今回）

図２のように、今回 2018 年の調査では、「韓国の歌手とタレント」「韓国の流行」の２つの項目が飛び抜けて大きな影響を及ぼしていた。この２つの項目のほか、「韓国の映画とアニメ」「韓国のテレビ番組」も比較的影響が大きく、サブカルチャーに関係する情報が大きな影響を与えていることがわかる。同時に、「過去の日韓関係」「両国間の領土問題」も影響が大きい方の項目になっており、歴史問題や領土問題もイメージ形成に影響を与えている。一方、経済関係の項目は影響が小さく、学生たちは韓国の経済には関心が薄いようである。

次に、前回 2003 年の結果と比較すると、前回と今回ではいくつかの点で違いが見られる。まず、もっとも目に付く違いはサブカルチャー関係の影響度で、今回は前回よりかなり影響が大きくなっている。前回の時点では、まだ本格的な韓流ブームになっておらず、サブカルチャーへの関心は低かった。現在は KPOP などサブカルチャーに対する関心が高くなっており、それが韓国へのイメージ形成にも大きな影響を与えている。台湾で行った調査でも、サブカルチャーが韓国イメージに大きな影響を与えていた。若い世代では、国のイメージ形成にサブカルチャーが大きな影響力を持っているようである。次に目に付くのは、「新聞の報道」や北朝鮮に関する情報の影響が前回に比べて小さくなっている点である。新聞報道の影響が小さくなったのは、SNS の発達で新聞の影響力が低下していることも関係しているだろう。調査では SNS の情報の影響について調べていないので、はっきりしたことは分からないが、新聞と SNS では影響度が違う可能性もある。また、北朝鮮に関しては、2003 年当時の情報量と最近の情報量の差が関係していると思われる。最近は北朝鮮に関する情報量が多くなり、人々は韓国と北朝鮮を区別して認識するようになっている。その結果、韓国のイメージ形成に及ぼす影響が少なくなったのではないかと考える。そのほか、今回は「韓国製の商品」の数値が高くなっている。これは化粧品など韓

国の製品に対する関心が高くなっている影響であろう。

なお、専攻学習者では、サブカルチャーの影響が教養学習者よりさらに大きい。特に「韓国のテレビ番組」の影響が 3 番目に高く、専攻学習者はより幅広い分野のサブカルチャーに接触していることがわかった。さらに、「韓国人韓国語教師」「韓国人留学生」の影響も大きく、これは実際にそれらの人に接触する機会が多いためであろう。

3. 韓国語学習の動機

調査では、韓国語学習の動機についても質問した（質問票 2.1 参照）。図 3 は、前回と今回の教養学習者の結果を示したものである。

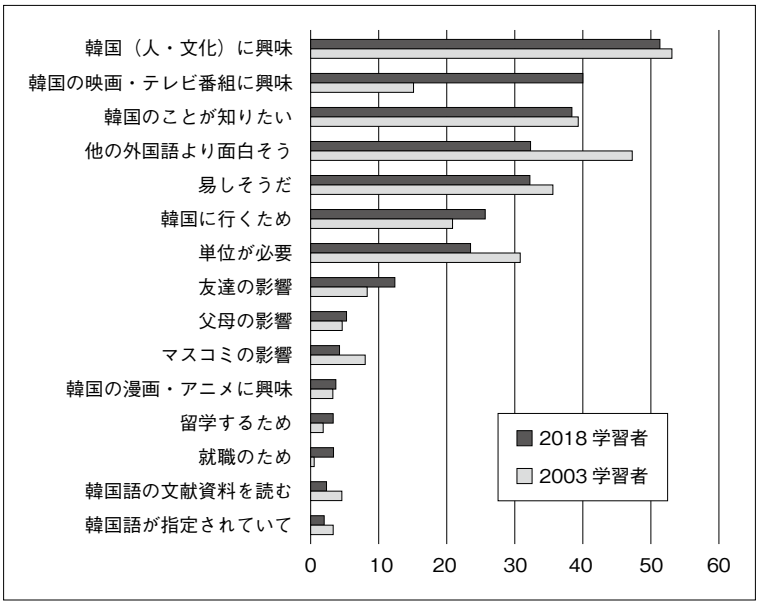


図 3　韓国語学習動機（複数回答）（教養学習者　前回と今回）（数値は%）

今回の結果を見ると、「韓国（人・文化）に興味」「韓国の映画・テレビ番組に興味」「韓国のことが知りたい」の順に数値が高かった。この結果を見ると、韓国（人、文化）への関心、サブカルチャーへの関心が主たる学習動機になっていることが分かる。特に、「韓国の映画・テレビ番組に興味」が前回に比べて大きく伸びていることが注目される。韓国のイメージ形成でもサブカルチャーが大きな影響を与えていたが、韓国語を学習する上でも大きな動機になっていることがわかる。しかし、イメージ形成での影響度を考えると学習動機でももう少し高い数値が予測されるところである。この点については、調査方法に問題があったかもしれない。「その他」の項目で 17 名から「音楽に関心があって」という回答があった。現在は映画やテレビよりも音楽に関心を持つ学生が多いようであり、選択項目に「音楽に興味があって」という項目があれば、かなりの数値になった可能性がある。経年調査ということで選択項目を変えずに行ったが、この質問は複数回答なので状況に合わせて選択項目を増やすことも可能であった。この点は今回の調査

の反省点の一つである。

さらに、前回と今回の結果を比べると、先ほど指摘した「韓国の映画・テレビ番組に興味」の違いのほか、逆に「他の外国語より面白そう」「易しそうだ」「単位が必要」で、前回より今回の方が数値が低くなっている。これらの項目は消極的な学習動機であり、全体的に見て、今回は前回より消極的な動機が減り、積極的な動機が増えている。これについては、今回の方が前回より女性回答者の比率が高かったことが影響しているようで、次節で詳しく述べる。

専攻学習者では上位 3 項目は同じだが、数値が 20％以上高い。4 番目に高いのは「留学するため」（50.0％）で、ほかにも「就職のため」（33.3％）も比較的高い数値になっており、専攻学習者はより実用的な動機で韓国語を学習していることが分かる。

調査では、韓国語を勉強して将来役に立つかという質問もした（質問票 1.9 参照）。結果を見ると、教養学習者の 77.5％が役に立つと答えている。さらに、どういう役に立つかを質問したところ、「韓国人とのコミュニケーション」（75.1％）、「観光」（70.2％）という回答が多かった。そのほか、4 割弱の学生が「仕事をする時」、2 割が「就職」を挙げており、教養学習者でも実用的な面で役立つと考える学生がかなりいることが分かった。なお、この質問に対する前回の回答は全体的に今回と同じような傾向であり、何の役に立つかについては、大きな変化はないと言えよう。

また、今後どの外国語を勉強すれば役に立つかと質問したところ（質問票 1.10 参照）、教養学習者がもっとも多く回答した言語は英語（874 名）と中国語（868 名）であり、次に韓国語（414 名）、スペイン語（246 名）、フランス語（230 名）と続く。韓国語学習者の回答なので当然韓国語を挙げる人が多くなるだろうが、結果を見ると今の学生たちの世界観がうかがわれ興味深い。[7)]

4. 学習者の性別と回答傾向

学習者の属性と回答傾向の関係についても分析してみたところ、性別によって回答傾向にかなり差があることが分かった。ここでは、性別と回答の関係について述べることにする。なお、専攻学習者はほとんどが女性なので、分析の対象は教養学習者のみとなる。また、最初に述べたように、調査協力者のうち 4 分の 3 は女性であり、男性は 4 分の 1 に過ぎない。さらに、大学によって男性の数に偏りがあるので、ここで示された男性の傾向がどこまで一般的な傾向であるかは、慎重に扱う必要がある。

まず、韓国に対するイメージを尋ねた結果を性別ごとに示すと、表 1 のようになる。表 1 でわかるように、今回の場合、男性より女性の方がよいイメージを持つ人が多い。女性の方がよいイメージを持っているので、学習者も多いということかもしれない。さらに、前回の調査でも女性の方がよいイメージを持つ傾向が見られる。女性の方が韓国に対してよいイメージを持ち続けているという点は、日本と韓国の友好関係を構築する上で留意すべき点であろう。

7）台湾の調査では、同じ質問に対して英語、日本語、スペイン語、韓国語、ドイツ語の順に回答数が多かった。

表 1　韓国イメージ　性別との関係（教養学習者　前回と今回）（数値は%）

	2003 男性	2003 女性	2018 男性	2018 女性
とてもよい	6.1	12.7	10.9	12.9
よい	45.8	57.7	25.8	36.4
特に他の国と変わらない	35.9	28.2	50.0	42.7
悪い	11.5	1.4	10.9	7.5
かなり悪い	0.8	0	2.0	0.3

次に、韓国のイメージ形成に関する結果を性別に分けて示したのが図 4 である。図 4 のように、男性は女性に比べてサブカルチャーの影響が少ない。観光客や韓国人教師からの影響も女性に比べて少ない。一方、歴史問題や領土問題、新聞報道、北朝鮮との関係は、性別による差がない。結果的に、男性では女性に比べて歴史問題など政治的な項目の影響度が相対的に大きくなっている。KPOP や韓国の製品は女性に人気があり、そのことが韓国のイメージ形成に影響を与えているが、男性の場合は女性ほどサブカルチャーの影響が浸透していないようである。

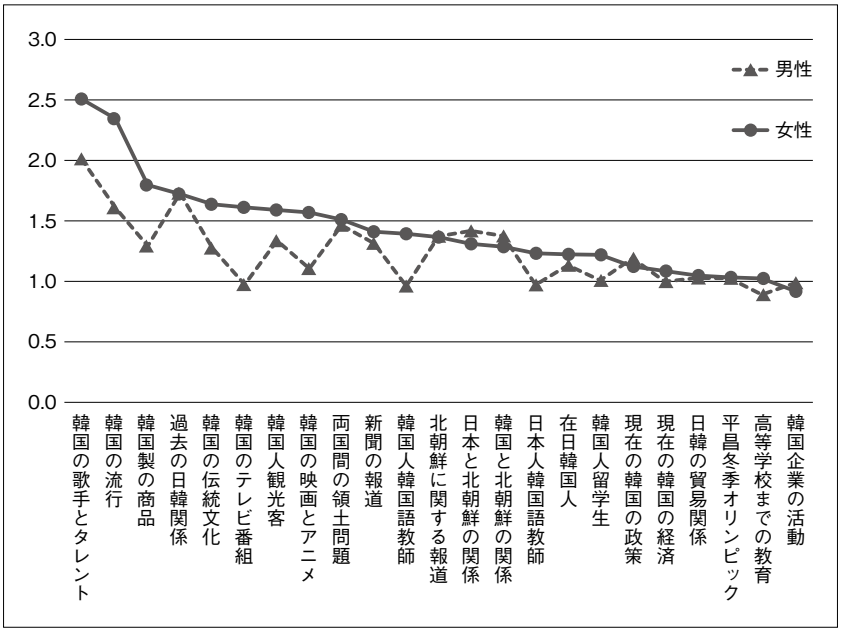


図 4　韓国イメージ形成への影響項目　性別との関係（教養学習者　今回）

さらに、韓国語学習の動機についても性別との関係を調べてみた。その結果が図 5 である（数値の小さい項目は省略）。図 5 のように、男性と女性ではかなり回答傾向が異なる。女性は、すでに全体的な傾向で述べたように、サブカルチャーなど韓国への関心が動機になっている。一方、男性では動機の上位に「易しそうだ」「単位が必要」が挙がっており、韓国そのものへの関心より学習しやすさ、その結果として単位の取りやすさがかなり大きな動機になっている。積極

的な動機を持つ学生は男性より女性の方が多く、逆に消極的な動機を持つ学生は女性より男性の方が多いと言えるだろう。イメージ形成の要因の結果も合わせて見ると、女性は韓国に関し積極的に関心を持つ事柄があり、その事柄がイメージ形成にも大きな影響を与えている。一方、男性は消極的な学習動機で、韓国自体にははっきりとした関心を持っていない。関心がない場合は、イメージ形成でもマスコミや SNS など、広く流布している情報の影響度が高くなると見られる。今回の調査結果に関して言えば、女性がサブカルチャーに関心を持っていることが学習動機だけでなく、イメージ形成においても、全体の結果に大きな影響を与えていると考えられる。

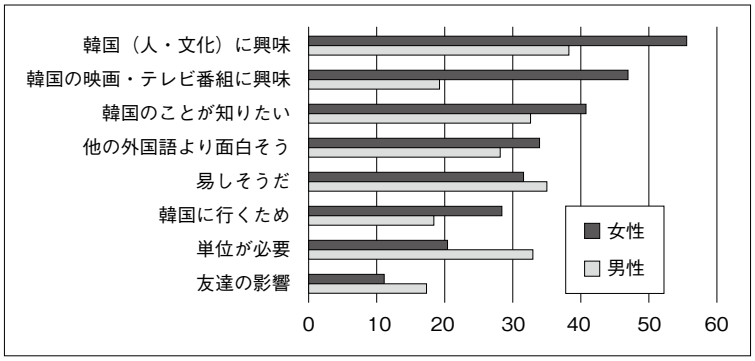


図 5　韓国語学習動機　性別との関係（教養学習者　今回）（数値は％）

今回の結果を見て、前回の学習動機の結果についても性別で分析したところ、今回とよく似た傾向が見られた。前回の女性の場合、サブカルチャー関係の数値は今回ほど高くないが、「韓国のことが知りたい」「韓国（人・文化）に興味」「他の外国語より面白そう」の項目では男性より 10％から 20％程度高い数値になっている。逆に、「易しそうだ」「単位が必要」の項目では、男性の方が女性より 10％程度高い数値になっており、前回でも積極的な動機は女性、消極的な動機は男性が多いという結果になっている。15 年前と今回で同じ傾向が見られたことから、このような性別による動機の違いは韓国語だけの傾向でなく、他の外国語学習でも見られる傾向なのかもしれない。今後、学習動機の調査では性別の違いを十分考慮すべきであろう。なお、この性別による結果から、図 3 で示した前回と今回の学習動機の差も、回答者の男女比率がかなり影響していると考えられ、今回と前回で明確に異なる点は、サブカルチャー関係の動機が増えたことだけだと言えよう。

また、韓国に対するイメージと学習動機に関する結果を合わせて見ると、前回の時点では、動機は消極的であろうと韓国に対しては比較的よいイメージを持つ学生が韓国語を学習していた。しかし、現在は韓国に特別なイメージを持たず学習動機も消極的な学習者（特に男性に多く見られる）がいることが浮き彫りになった。これは、すでに多くの韓国語教師が実感していることであり、おそらく他の外国語では以前からそういう学習者がいたのであろう。日本の大学における韓国語教育は、学習者が増えると同時に、他の外国語教育と同様、外国語に無関心な学習者も対象とするようになった。そういう面で、日本の韓国語教育は新たな段階に至っていると言えよう。

5. 韓国語能力（自己評価）

最後に、学習者たちの韓国語能力について少し触れておく。今回の調査では、学習者に韓国語の会話、聴解、読解、作文について、それぞれの現在の能力、および将来目標とする能力について質問した（質問票 2.4 参照）。表 2 は、教養学習者の中で学習期間 1 年未満の学生について、その回答結果を示したものである。表の「現在・すこしできる以上」の欄は、現在の能力について回答選択肢「a. よくできる」「b. できる」「c. すこしできる」「d. ほとんどできない」のうち、a〜c を選んだ人の合計、つまり「すこしできる」以上の能力と回答した人の比率を表す。「将来・できる」は将来の能力について「b. できる」を選んだ人の比率、「将来・よくできる」は将来の能力について「a. よくできる」を選んだ人の比率である。

表 2　学習者の韓国語能力（自己評価）（教養学習者、数値は％）

能力＼技能	会話	聴解	読解	作文
現在・少しできる以上	28.6	37.6	37.9	27.8
将来・できる	51.8	36.1	39.1	45.2
将来・よくできる	14.9	33.1	25.5	20.7

表 2 の結果を見ると、学生たちは現在の能力について、聴解、読解に比べて会話、作文はあまりできないと判断している。学習期間 1 年未満の学生でも 4 分の 3 は半年以上学習しているので、「少しできる」という回答がもう少し多くてもよいはずだが、意外と自己評価は低い。将来の目標を見ると、「できる」程度でよいと考える学生がもっとも多い。特に会話ではその傾向がはっきりしている。一方、聴解では「よくできる」を目標にしている学生も多い。特に女性は、この聴解「将来・よくできる」の比率が 39.3％で、男性の 27.4％に比べてかなり高い。実は聴解「現在・少しできる以上」の比率を見ても、男性が 24.2％であるのに対し女性は 47.9％でかなり高い。聴解の能力だけ高い理由としては、KPOP の影響があるかもしれない。音楽を聞いて歌詞を聴き取ることが多いので、聴解には少し自信を持っているのではないか。また、将来の希望として歌や歌手の会話を聞き取りたいという希望があるのかもしれない。

そこで、聴解「将来・よくできる」を選択した学生の属性と回答傾向を調べてみた。まず性別では女性が 81％で圧倒的に多かった。韓国に対するイメージは、「とてもよい」の回答が全体の結果より 10％以上高かった。さらに、学習動機は、「韓国（人・文化）に興味」「韓国の映画・テレビ番組に興味」「韓国に行くため」の項目で全体の数値より 20％程度高く、逆に「易しそうだ」「単位が必要」では 10％程度低かった。さらに、イメージ形成に影響を与える要因は「韓国の歌手・タレント」「韓国の流行」「韓国のテレビ番組」「韓国の映画・アニメ」の影響度が高い。この学生たちは、明らかにサブカルチャーへの関心とそれらによる影響がより強いグループと言える。ただし、全体の傾向を大きく逸脱するほどの違いはない。全体的な傾向は同じだが、サブカルチャーの影響をより強く受けている学生たちと言えるだろう。いずれにせよ、外国語学習で聴解を重視する学習者の存在はあまり報告されたことがない。今後、韓国語を教える際には、学習者の希望に合わせて、聴解の練習を積極的に取り入れる必要があるだろう。

まとめ

本稿では、2003 年と 2018 年の 2 回、日本の大学生に行ったアンケート調査をもとに、韓国のイメージ形成に影響する要因、韓国語学習の動機、学習者の能力に関する結果を分析し、相互の関連性について述べた。分析の結果をまとめると以下のようになる。

1）現在、韓国のイメージ形成にもっとも大きな影響を与えているのは、韓国のサブカルチャーであり、この点は 2003 年と大きく異なる。また、歴史問題や領土問題もイメージ形成にかなり影響を与えており、この点は 2003 年と同じである。さらに、新聞報道や北朝鮮関連の情報の影響は、それほど大きくなく、2003 年に比べるとその影響度は大きく減っている。

2）ただし、男性と女性では回答傾向に違いがある。女性は男性に比べて、サブカルチャーの影響が大きく、韓国製品の影響度も高い。男性は女性に比べてサブカルチャーの影響が少なく、相対的に歴史問題や新聞報道など、マスコミや SNS で流される情報に影響される度合いが高くなっている。

3）韓国語の学習動機は、韓国（人・文化）への関心とサブカルチャーへの関心が主たる動機になっており、2003 年とはっきり違うのは、サブカルチャーへの関心の高さである。女性は積極的な動機を持つのに対し、男性は単位取得のためなど消極的な動機が多い傾向があり、その傾向は 2003 年においても同様であった。男女の学習動機の傾向の違いが、韓国のイメージ形成要因における男女差にも関係していると考えられる。

4）学生が自己評価した韓国語能力を見ると、現時点では会話、作文の能力が聴解、読解より低い。女性では聴解の能力が少し高く、将来も高い聴解の能力を目指している。

2 回の調査結果を分析した結果、日本と韓国の交流分野の拡大、特に音楽を中心とした韓国サブカルチャーの浸透が、イメージ形成や学習動機に大きな影響を与えていることが確認できた。ただし、その影響は女性に偏っており、男性にはそれほど浸透していないようである。現在、政治的には日韓関係は難しい時期にあるが、韓国に積極的な関心を持つ学習者は、政治情勢に左右されることなく韓国に対してよいイメージを持っている。一方で、積極的な関心のない学習者は、政治に関係するマスコミや SNS の影響を受けやすい。また、韓国語の学習者の増加は、一方で韓国や韓国語に対してあまり関心のない学習者をも抱えることになった。今回の調査結果は、韓国語教育の充実・拡大をめざすための基礎データとなるであろう。特に、日本人の若い男性にいかに韓国語への関心を持たせるかが、今後の重要な課題と言えよう。

今回の調査は、調査対象大学が地域的に限られており、また男性学習者のデータの量も十分とは言えない。今後さらに多くのデータを収集する必要がある。本稿では日本の調査結果のみを扱ったが、今後、台湾の調査結果や韓国の日本語学習者への調査結果も加えて、さらに幅広い観点から分析を進める予定である。

最後に、今回のアンケート調査に協力していただいた学生諸君、調査実施にご尽力いただいた三ツ井崇、崔泰源、永原歩、金秀美、金智賢、齋藤良子、高木丈也、荻野優子、岡村佳奈、李在鎬の各先生方、また各大学の授業担当の先生方、結果集計を手伝ってくれた高景綺さんに感謝申し上げる。

参考文献

生越直樹（2006）「韓国に対するイメージ形成と韓国語学習」、『言語・情報・テクスト』13、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻（齊藤明美編（2012）に「第Ⅰ部 第2章 日本における韓国に対するイメージ形成と韓国語教育」として再掲）

生越直樹（2012）「第Ⅰ部 第5章 台湾における韓国に対するイメージ形成と韓国語教育－日本調査との比較を中心に－」、『言語学習と国、国民、言語に対するイメージ形成の研究 －日本と台湾の韓国語学習者と韓国と台湾の日本語学習者を中心に－』（齊藤明美編）、J&C（韓国ソウル）

生越直樹（2018）「台湾における韓国のイメージ形成と韓国語学習の関係 ―アンケートを通して見た現状と変化―」、『言語・情報・テクスト』25、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻

오고시 나오키（2018）「대만에서의 한국에 대한 이미지 형성과 한국어 학습의 관계 ―설문 조사를 통해 본 현황과 변화―」、『제 4 회 국립가오슝대학 한국연구센터 국제학술회의대만에서의 한국학과 한대만 관계 연구논문집』、국립가오슝대학 한국연구센터

오고시 나오키（2019）「일본에서의 한국어 학습과 한국에 대한 이미지 형성의 관계―대학생 학습자를 대상으로 한 설문조사를 통해 본 현황과 변화―」、『한국어교육센터 개원 50 주년 기념 국제학술대회 발표논문집』、서울대학교 언어교육원 한국어교육센터

齊藤明美編（2012）『言語学習と国、国民、言語に対するイメージ形成の研究－日本と台湾の韓国語学習者と韓国と台湾の日本語学習者を中心に－』、J&C（韓国ソウル）

齋藤良子（2012）「第Ⅰ部 第3章 日本における韓国語学習者の韓国、韓国人、韓国語に対するイメージ変化」、『言語学習と国、国民、言語に対するイメージ形成の研究－日本と台湾の韓国語学習者と韓国と台湾の日本語学習者を中心に－』（齊藤明美編）、J&C（韓国ソウル）

資料

韓国及び韓国語に関するアンケート調査

調査責任者 東京大学大学院総合文化研究科 生越直樹

このアンケート調査は日本の大学生を対象にしています。内容は、韓国、韓国人に対するイメージ調査、及び具体的な韓国語学習に関する事柄です。
正しいとか間違っているということはありませんので、感じられたとおりに気楽に答えてください。

◎最初に、あなたご自身のことについて少し教えてください。
＿＿＿＿＿の部分に書き入れるか、該当する部分・番号に○を付けてください。

0-1. 所属＿＿＿＿＿大学＿＿＿＿＿学部＿＿＿＿＿学科／学類＿＿＿＿年
0-2. 年令＿＿＿＿才　性別（男、女）
0-3. 国籍（日本、韓国・朝鮮、その他）
0-4. 出生地　日本（＿＿＿＿＿都道府県＿＿＿＿＿市町村区)、外国（＿＿＿＿＿）
0-5. 家族に韓国語を話せる人がいますか。(はい　　いいえ)
0-6. 韓国人の先生に韓国語を教わったことがありますか。(はい　　いいえ)
0-7. 韓国人の知り合いがいますか。(はい　　いいえ)
0-8. 今まで韓国語を学習したことがありますか。(はい　　いいえ)
(はいと答えた人)
0-8a. 学習期間はどのくらいですか。
1. 半年未満　　2. 半年以上 1 年未満　　3. 1 年以上 2 年未満　　4. 2 年以上
0-8b. いつ学習しましたか。
1. 小学校以前　　2. 小学校時代　　3. 中学校時代　　4. 高校時代　　5. 大学入学後

◎次の質問に答えてください。[韓国、韓国人のイメージについて]
1-1. あなたは**韓国**に対してどんなイメージを持っていますか。(○を付けてください)
1. とてもよい。　　2. よい。　　3. 特に他の国と変らない。　　4. 悪い。
5. かなり悪い。

2-1. 以下の各事項は、あなたの**韓国**に対するイメージ形成にどのくらい大きな影響を与えていますか。各事項ごとに、影響の度合を一つずつ選び、□に✓を書き入れてください。

(1) 過去の日韓関係　　大□　中□　小□　無□
(2) 韓国の伝統文化　　大□　中□　小□　無□
(3) 韓国の映画、アニメ　　大□　中□　小□　無□
(4) 韓国の流行　　大□　中□　小□　無□

（5）韓国人観光客　大□　中□　小□　無□
（6）新聞の報道　大□　中□　小□　無□
（7）高等学校までの教育　大□　中□　小□　無□
（8）韓国のテレビ番組　大□　中□　小□　無□
（9）現在の韓国の経済　大□　中□　小□　無□
（10）日本と韓国との貿易関係　大□　中□　小□　無□
（11）韓国の歌手 , タレント　大□　中□　小□　無□
（12）韓国人韓国語教師　大□　中□　小□　無□
（13）日本人韓国語教師　大□　中　□小□　無□
（14）韓国製の商品　大□　中□　小□　無□
（15）両国間の領土問題　大□　中□　小□　無□
（16）現在の韓国の政策　大□　中□　小□　無□
（17）韓国企業の活動　大□　中□　小□　無□
（18）韓国人留学生　大□　中□　小□　無□
（19）ピョンチャン冬季オリンピック　大□　中□　小□　無□
（20）在日韓国人　大□　中□　小□　無□
（21）韓国と北朝鮮の関係　大□　中□　小□　無□
（22）日本と北朝鮮の関係　大□　中□　小□　無□
（23）北朝鮮に関する報道　大□　中□　小□　無□

（1-3～1-8 中略）

1-9.　韓国語を勉強して将来役に立つと思いますか。
1. はい　2. いいえ　3. その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
（「1. はい」を選んだ人だけ答えてください）
1-9a. 具体的にどのような点で役立つと思いますか。（複数選択可）
①仕事をする時　②就職する時　③観光旅行に行く時　④韓国の状況を知るため
⑤韓国人とコミュニケーションする時　⑥専門の技術 , 情報を知るため
⑦昇進する時　⑧その他（＿＿＿＿）

1-10. あなたは今後どの外国語を勉強すれば役に立つと思いますか。役に立つと思う順に 3 つ書いてください。
（1）＿＿＿＿＿＿＿＿（2）＿＿＿＿＿＿＿＿（3）＿＿＿＿＿＿＿＿

［韓国語学習について］
2-1.　あなたが韓国語を学習している理由は何ですか。（複数選択可）
a. 韓国のことが知りたい。　b. ほかの外国語より面白そうだ。　c. 易しそうだ。
d. 韓国、韓国人、韓国文化に興味がある。

e. 韓国語が指定されていて、学習せざるを得なかった。
f. マスコミの影響を受けた。　g. 友人の影響を受けた。　h. 父母の影響を受けた。
i. 韓国の映画、テレビ番組に興味がある。　j. 韓国の漫画、アニメに興味がある。
k. 韓国語の文献資料を読むため。　l. 韓国へ行くため。　m. 単位が必要。
n. 就職のため。　o. 留学するため。　p. その他（＿＿＿＿＿）

（2-2～2-3 中略）

2-4.　現在、自身の韓国語の能力で何ができると思いますか。また将来、韓国語がどのくらいできれば満足ですか。（（　）の中に該当するアルファベットを記入してください。）

（1）韓国語の会話について
　　現在の程度（　　）　　将来の希望（　　）
　a. よくできる（専門的な討論ができる）　b. できる（韓国で一人で旅行ができる）
　c. すこしできる（韓国語で買物ができる）　d. ほとんどできない

（2）韓国語の聴解について
　　現在の程度（　　）　　将来の希望（　　）
　a. よくできる（テレビを見たり、ラジオを聴いた時、内容が十分に理解できる程度）
　b. できる（テレビドラマで言っている内容がおおよそわかる）
　c. すこしできる（テレビドラマの内容がすこし理解できる）
　d. ほとんどできない

（3）韓国語の読解について
　　現在の程度（　　）　　将来の希望（　　）
　a. よくできる（辞書を引かずに小説が読める）
　b. できる（辞書を引かずに新聞が読める）
　c. すこしできる（辞書を引きながら新聞が読める）　d. ほとんどできない

（4）韓国語の作文について
　　現在の程度（　　）　　将来の希望（　　）
　a. よくできる（レポートが書ける）　b. できる（メールが書ける）
　c. すこしできる（簡単なメモが書ける）　d. ほとんどできない

（2-5～2-6 中略）

ご協力どうもありがとうございました。